

帯広市市民防災・減災懇話会（第6回）議事録【要旨】

日 時／平成24年11月27日（火）18:00～19:45
場 所／帯広市役所 10階第5A会議室

1. 開会

2. 座長挨拶

3. 事務局報告

委員17名中10名が出席しており会議が成立していることを報告。

4. 議事

（1）最終まとめに向けた意見交換

報告書（案）について、検討項目ごとに意見交換を行った。

【検討項目1 市民の防災・減災意識づくりについて】

① A委員

- ・災害時要援護者など自分自身で動けない方もいるなかで、自助ができないと共助ができないというのはおかしい。
- ・公助というキーワードが入っていない。

② B委員

- ・前提となる被害想定についての記載がない。

③ C委員

- ・先日の大雨の際に、市がすぐに Facebook を取り入れ市民に情報を提供していたのは非常によかった。
- ・職場での防災訓練を行ったが、現役世代は日中勤めている方が多いため、事業所単位での取り組みも重要。

④ D委員

- ・防災対策を継続して取り組むことが重要。

【検討項目2 災害時要援護者の支援について】

① A委員

- ・地域包括支援センター、ケアマネージャー、介護ヘルパーなどは担当する災害時要援護者の詳細な情報を持っているが、個人情報の関係で共有することが難しい。

② B委員

- ・災害時には災害時要援護者への対応（医療、薬など）は必ず遅れる。

③ C委員

- ・災害時の緊急的な対応は隣近所しか無理である。

④ D委員

- ・サロン活動などコミュニケーションが重要である。DIG などを通して自分の地域の危険箇所を確認する。

【検討項目3 地域における平時、災害時の活動や連携について】

① A委員

・自分の地域にいるより勤務地での時間の方が長いため、事業所での取り組みが必要。

② B委員

・地域と事業所との連携が重要。

③ C委員

・老人クラブで友愛活動を行っているが、今後より一層取り組みを行いたい。

④ D委員

・災害時には隣近所でなければ救助できない。地域の事業所への協力体制や女性のリーダーの役割が重要。

(2) 懇話会の感想、その他意見

① A委員

・今後連合町内会で災害時要援護者対策についても取り組んでいきたい。

② B委員

・災害時に民生委員だけでは対応できないので、各町内会に福祉部などを設けて見守りの体制を整えるべき。

③ C委員

・防災マスターでの会合とは異なり、様々な団体、事業所の方の視点での意見を聞くことができ参考になった。

④ D委員

・防災、減災についてはあまり考えたことがなかったため勉強になった。

⑤ E委員

・本会の委員として、防災意識をより高く持ち活動していかなければならないと感じた。

⑥ F委員

・東日本大震災後、被災地での支援活動を通して防災意識を持った。
・団体間の連携だけではなく、地域内の連携や助け合いなど地域コミュニティの回復が必要だと思った。

⑦ G委員

・災害時要援護者に関する個人情報の問題についてはなかなか結論がでなかったが、災害時には必ず助けなければならない。

⑧ H委員

・市老人クラブ連合会では今まで防災活動を行っていなかったもので、今後検討していきたいと感じた。

5. その他

今回は今年度の最終回であり、本日委員からいただいた意見を反映させた報告書を作成し、来年度以降の市の防災施策に役立てていきたい。

また、委員の任期は2年間ということでお願いしており、来年度は施策の中間報告と最終報告の2回程度本会を開催するのでご協力をお願いしたい。